

# アグアスだより

2013年5月号②

## 休日授業参観のお礼

27日(土)の休日授業参観には、多数の方にご来校いただき、ありがとうございました。「どの学級の子も達も、それぞれが授業に集中していて、とても立派だった」というのが私の印象でした。教師も同様の感想を持ったようです。保護者の皆様はどのようにお感じになられたでしょうか。

私は、教師の温かくも厳しい指導、子ども達の努力、保護者の皆様の励まし、この三つがそろったことで、子ども達のやる気が高まったのだと思います。これは非常に大事なことで、日常のすべての教育活動も、三者が一体となるときに、初めてその成果があがるものと考えます。これからも学校は、家庭との連携を重視して、お子様の指導に当たっていくつもりです。

今後とも、本校の教育活動に対するご支援・ご協力を心からお願いいたします。

## 練習の時は本当のように

4月19日に緊急引き取り訓練が行われました。午後から激しい大雨が予想される、という想定のもとでの実施でした。子ども達は緊張感を持って避難訓練に臨んでいました。これから何度か避難訓練が予定されています。私は避難訓練と、実際に災害が起こったときの心構えとして、子どもたちに次のような話をしました。

「避難訓練は、学校で地震や火災などの災

害が起きたときのことを考えて、みなさんの大事な、ひとつしかない命を守るために行います。ですから、練習の時には、本当に地震や火災が起きたときのように真剣に取り組みます。そして、まんがいち、本当に地震や火災が起きてしまったら、そのときには、練習でやったときのことを思い出しながら行動します。練習の時は本当のように、本当の時には練習のように行動する、それが避難訓練の練習と災害時の心構えです。」

危機管理には「平常時・緊急時・収束時」の三つの局面があります。「収束時の危機管理」は、再発防止策です。問題は「平常時の危機管理」と「緊急時の危機管理」です。特に後者は、命を左右するほどの重大な局面です。実際に災害に遭ったとき、人の心はパニック状態に陥ります。頭が真っ白になってしまい、何をどうしたらよいのか、日頃の判断力を失ってしまいます。このようなときの行動指針が「練習の時の思い出し」です。ここで「平常時の危機管理」が生きてくるのです。「練習の時は本当のように、本当の時は練習のように」というのは、こうした「平常時」と「緊急時」の危機管理の関係を述べているのです。

さて、つい最近、似たような事例に出会いました。家でスカイのNHK番組を見ていたときのことです。スノーボード・クロスでソチ冬季オリンピックを目指す、女性アスリートの成長を取材した番組をやって

いました。ご覧になった方もいらっしゃるかもしれませんが。彼女は競技本番で、どうしても周りの選手の存在が気になって、成績が伸びないことに悩みます。自分の競技に集中するためにどうすればいいか、いろいろと試みますが、いずれもうまくいきません。迷いぬいたあげく、相談したコーチにこういわれます。「競技本番で、練習中にうまくいった滑りを頭に思い描け」です。番組では、ここから彼女の快進撃が始まるのですが、私は別のことを考えていました。先の「本当の時は練習のように」、これは避難訓練だけでなく、学校における「練習」と「本番」一般に当てはまるのではないか、ということです。そういえば、前に私が勤めた学校の子ども達も、学習発表会などでこの言葉を「合い言葉」にしていた、という話を聞いたことがあります。私の言った意図とは違うのですが、子ども達なりの受け止め方をしたようです。アグアス日本人学校においても、子ども達一人ひとりの心に届く言葉になってもらいたい、とひそかに思っています。

### アグアスの桜

日本の桜の苗木を植えるイベントがセダソ公園で開かれました。アグアスと日本の交流をいっそう深めるため、州政府が企画した催しです。州政府主催で、日本企業のトップの方々や交流センターの方々などが招かれての盛大なセレモニーでした。日本人学校も、児童生徒が十数名参加して、式典に花を添えました（家庭訪問中のため、一部の子ども達だけでしたが）。スピーチの中で、州知事は、日本企業とのいっそうの経済協力について語られ、そのなかで、日

本人学校についても触れられました。「日本企業の方々アグアスに来て仕事出来るのも、日本人学校があるおかげです」というような内容でした。日本人学校に関わる者として、州知事のお話を聞いて、なにやら誇らしい気持ちになりました。

桜を植える庭園には、日本の太鼓橋のようなモニュメントが出来ていて、アグアス政府の日本文化に対する配慮が感じられました。子ども達は、苗木を植えた後、つめかけた報道陣のシャッターの嵐に、驚きのあまり目を丸くしていました。そして、翌日の新聞の一面には、植樹作業をしている子ども達の写真が、しっかりと掲載されていました。私も隣で苗木を植えていたのですが（それも、かなりの力仕事をしていたのですが）、新聞の写真では、すっかり除外されていました。やはり日本の子ども達と桜の取り合わせは絵になるのでしょう。

当日はアグアスらしいさわやかな晴天で、公園の木々の緑がいつも以上に美しく輝いていました。ハカラランダの花もまだ残っていて、紫の花が新緑に映えて見事でした。いつか、この公園で、桜とハカラランダの花が共に咲き誇る風景が見られるのでしょうか。そんな光景を思い描きながら、そして、桜とハカラランダの花が、両国の架け橋になることを願いながら植樹祭は幕を閉じました。

